

### 3 緑地の保全及び緑化の推進のための取り組み

#### 3-1 育む緑

---

##### 1) 町民の関心を高め広める

町民みんなが緑の大切さを理解し、緑に対する関心を持つこと。

これが緑のまちづくりを進めていくための第一歩です。

まちの中の大切な緑、緑をまもりふやしていくための知識や技術を知り、町民や町外に住む人たちにも音更の緑への取り組みを広く伝えていきます。

#### 1

#### 緑を知り、親しむ

##### ● 緑の大切さを知り、緑に親しむ機会をつくれます。

- 緑化週間や緑をテーマにしたイベントなどを行うことにより、緑の大切さを知り、緑に親しむ機会をつくれます。
- 緑の写真コンテストや絵画コンクールのような緑をテーマにしたコンテストなども行い、緑への関心を高める機会をつくれます。
- このような機会を利用して、町民植樹祭、苗木や花の苗・種の配布を行い、まちいっばいに緑を広げていきます。

##### ● 緑のまちづくりへの取り組みを広く伝えます。

- まちのさまざまな場所や機会で行われる緑のまちづくりへの取り組みは、町民共通の情報として広報誌などで伝えていきます。
- また、音更町民みんなが協力しあって行う緑の取り組みは、まちのホームページ、新聞やテレビなどを通じて町外へも発信し、音更の緑に対する姿勢を示します。

■ 音更の緑のまちづくりを町外へも発信していこうという取り組みは、緑の基本計画ワークショップで参加者から提案されたものです。

## 2

### 花と緑のまちづくり賞

- **緑の表彰制度を検討します。**
  - 町民から寄せられた情報などをもとに、庭づくり・花づくりコンテストを行います。すぐれた緑化を行っている住宅や町内会、商店街や工場、緑に関する活動を行っているグループなどへの表彰を行うことにより、緑をまもり、ふやすことの意識を高めます。
- **表彰された緑の空間や活動は、広く町民に伝えていきます。**
  - 花と緑のまちづくり賞で表彰された緑の空間や活動は、広報誌への掲載、パンフレットの作成、写真展の開催などを行い、町民に紹介していきます。
  - また、それぞれの庭づくり・花づくりの方法を紹介したり、緑づくりの専門家に表彰された理由を解説してもらうことにより、町民の緑化に対する知識と技術の向上をめざします。

## 3

### 緑のリサイクル（再利用）

- **緑を最後までまちづくりに役立てます。**
  - 緑をまもり、ふやしていくためには、緑をそのままの状態にしておいたり、多くの木を植えたりするだけでは十分ではありません。  
たとえば、森をつくり育てていくためには間伐も必要です。また、まちの中では、道路の見とおしが悪い街路樹の枝を剪定したり、公園の落ち葉を集めて清掃する必要もあります。寿命がきた樹木は安全のために切らなければなりません。
  - ウッドチップ（木を細かく砕いたもの）を新しく植える木を育てていくために使ったり、散歩道に敷きつめたりするほか、落ち葉を利用してたい肥をつくるなど、緑を最後まで大切にし、まちづくりに役立てる方法を考えていきます。
  - また、引越しや改築により手放す庭木などについては、必要な人にゆずり、活用することができる方法を考えていきます。

■ 緑のリサイクルは、緑の基本計画ワークショップで参加者から提案されたものです。大切な緑をそまつにしないでいこう、という気持ちがかめられています。

## 2) 町民参加の機会をふやす

緑をまもり、ふやしていく取り組みは、町民と行政が緑に対する共通の意識を持ち、意見を交換し合いながら進めていくことが大切です。そのためには、行政が緑のまちづくりに対する町民への支援を行うことも必要です。

また、音更の緑や自然を知り、未来のまちづくりに生かしていくためには、まだまだ調べなければならない多くのことがあります。町民がさまざまな場面に参加することができる機会をふやし、緑の情報交換を行っていきます。

### 4

## 町民と育てる公園緑地づくり

- **公園を整備したり緑化を行うときには、その地域に住む人たちの意見を反映することができる機会をつくります。**
  - 公園緑地の整備内容のほか、郷土種や実のなる樹木、草花の導入など、緑化材料についてもワークショップや説明会などを行い、こどもからお年寄りまで、地域に住む幅広い年齢層の人たちからの意見を反映していきます。
  - 緑のまちづくりに関する調査や計画、公園緑地づくりの進みぐあいなどについて広報誌やまちのホームページなどで町民に知らせ、町民と行政が緑の情報を共有します。

■ ワークショップとは、まちづくりなどについて、さまざまな人たちが参加して意見や知恵を出し合うことによって、計画を実現するための問題を解決したり、提案を行うことです。音更町緑の基本計画でもワークショップを行い、さまざまな意見を取り入れています。

■ 幅広い年齢層の人たちからの意見を反映することについては、緑の基本計画ワークショップで参加者から提案されたものです。実際に公園などを利用する人たちの意見を取り入れようという考えから生まれています。

- 緑化に対する意識と知識を高めていきます。
- 町民や企業などの緑化活動を支援する機会をつくります。
  - 町民の緑化に対する知識と技術の向上を支援するため、音更町の中で緑や自然についての知識を持っている人たちの協力を得ながら、緑化講習会や自然観察会などを開催します。
  - 町民や企業などが中心になって行う緑化活動を支援していくため、緑化に関する専門的な知識を持つ人材の派遣制度をつくり、町民や企業などへアドバイスをしていきます。  
また、将来に向けて、緑化に関する専門的な知識を持つ人材を育てることも検討します。
  - 苗木や花の苗など、緑化に必要な材料を配布したり、安く提供することも検討します。
  - また、地域コミュニティ拠点整備としての花木植栽、遊歩道などの施設整備のほか、町道の並木づくり、水辺などを利用した環境づくり、野生小動物とのふれあいの場づくりなど、地域の特性を生かした地域住民自らの取り組みに対しては、「潤いと思いやりの地域づくり事業」により積極的に支援します。
- 行政の中に、緑のまちづくりを総合的にまとめていく組織の充実につとめます。
  - 緑に関わる計画や取り組みを総合的にまとめていく組織を充実させ、行政の中の情報と町民からの意見などが、ひとつの部門ですべてわかるような体制づくりを検討します。
  - さまざまな部門で行われる計画や取り組みを効率よく進め、すみやかな情報の提供とサービスを行います。

■ 緑化に関する専門的な知識を持つ人材の派遣制度と人材を育てていく取り組みは、緑の基本計画ワークショップで参加者から提案されたものです。

## 6

## 緑の情報収集と発信

- 緑や動物など、音更の自然に関する情報を集め、未来のまちづくりに役立てていきます。
- 音更の自然については、まだ情報が不足しているといえます。自然とともに暮らすまちを実現するため、特徴のある植物がどこにあるのか、どのような動物が生息しているのかを知り、未来の保全に役立てていきます。
- 今までに調査された情報に加えて、町民や町内外の専門家などからのさまざまな情報を収集し、その情報を提供することができるようなしくみを考えていきます。
- また、音更の緑や自然に関する情報を、まちのホームページなどで紹介することも検討します。



●丸美が丘の樹木のトンネル



(十勝牧場 夫婦柏)



(晩成学園 イタヤカエデ)

●音更町の名木